

# しあわせの島<sup>くに</sup>

ふくしま職業宣言

国際ロータリー第 2530 地区  
2022-23 年度 職業奉仕委員会

## 序 文

あの東日本大震災は、2011 年 3 月 11 日に発生した地震とそれに伴う大津波により、未曾有の想像を絶する被害が発生しました。特に福島県では、福島第一原子力発電所の事故により、大規模な放射能汚染が発生し、地域の経済や社会に深刻な大きな爪痕を残しました。

ふくしま職業宣言は、職業倫理を実践する者が決意を新たに、復興の推進とともに未来に向けた飛躍を意図するものです。

2020-21 年石黒秀司ガバナー年度に初瀬照夫職業奉仕委員長が中心となり策定されたのが「しあわせの島<sup>くに</sup>ふくしま職業宣言」です。このふくしま職業宣言のさらなる利活用の方策を今年度職業奉仕委員会に託されたのが佐藤正道ガバナーであります。これを受け当委員会では喧々諤々討議を重ねた結果、「しあわせの島<sup>くに</sup>ふくしま職業宣言」の唱和に留まることなく、宣言が意味する内容まで理解出来るものが必要ではないかとの決議がなされ、このたびの冊子の上梓と地区 HP への掲載に至りました。

ふくしま職業宣言の利活用と定着は、ロータリアンとして倫理的価値観や道徳的観念に基づいた、誠実さ、正直さ、清廉さ、慈悲深さなどの美德を身に着け、それに従って行動する人材を育成することにあります。福島の復興における職業のあり方を考える上でも、重要な基準となるものと考えます。地域の皆様と協力して、社会の持続可能性を追求するためにも、積極的な取り組みを進めていくことが求められているのではないのでしょうか。

各クラブ会長・職業奉仕委員会委員長におかれましては、是非この冊子を活用して例会において研修して頂き「しあわせの島<sup>くに</sup>ふくしま職業宣言」の理解を深めて頂くことを切望して止みません。この冊子が、ロータリアン皆様の職業奉仕活動推進の一助になることを祈念し挨拶とします。

国際ロータリー第 2530 地区

2022-23 年度職業奉仕委員会

委員長 齋藤 純一

## しあわせの島<sup>くに</sup> ふくしま職業奉仕宣言

東日本大震災の苦しみと悲しみを乗り越えて

今、鎮魂の祈りから「奉仕の理念」に基づき

「感謝」と「思いやり」の心で職業を通して

世の中に貢献します

### 1. 例会を通して自己を磨き、「奉仕のこころ」を高めます。

私たちは、例会で他の会員と切磋琢磨して人格の向上に努め、  
利己と利他の調和を目指して奉仕の心を高めます。

### 2. 各々の職種において、職業倫理の向上と奉仕の普及に努めます。

私たちは、自らの職業のみならず、自分の職業が所属する業界の  
職業倫理の向上に努め、同業界全体が職業奉仕を行うよう尽力します。

### 3. 自分の職業に誇りを持ち、積極的に価値ある行動をします。

私たちは、自分の職業が世の中に価値を生み出すことに誇りを持ち、  
さらに、自分の人生が世の中に役立つような生き方をします。

### 4. 「四つのテスト」を行動指針とし、自分自身を律します。

私たちは、四つのテストを行動指針として自己を律し、信用される  
人間になって職業奉仕に努めます。

## ふくしま職業宣言制定とは

「ふくしま職業宣言」制定は、倫理経営の実践者の決意を胸に深く刻むためにあります。あの東日本大震災から 10 余年、全世界から寄せられたご支援や励ましに対しての完全復活宣言であり、鎮魂の祈りから新たなる飛躍を期するものです。それは、ロータリー 100 年の回顧から更なる充実を意味します。

自分磨きや自己成長を念頭においた「規則的例会出席の原則」は高邁な精神的親睦の土壌を作り上げました。企業経営上の発想の交換と世の為、人の為の奉仕のアイディアの交換である「発想の交換機能」は、20 世紀初頭のロータリアンたちの職業奉仕という類<sup>たぐい</sup>希なる概念を生み出しました。

かつての日本のロータリアンは、この発想の交換機能による例会出席の重要性を強く認識し、実践していたのではないかと思います。また、「伊達にはつけぬ胸のバッジ」「バッジは見ている」などの大先輩ロータリアンのエッセイに触れると、ロータリークラブ所属の喜びと矜持、さらに、自己を如何に律していたかが、良く理解できます。ロータリークラブが、もっともっと社会になくてはならない団体になるため、もっともっと素晴らしいロータリアンになるため、私たちは、退路を断って、誇りに満ちた行動が必要なのではないのでしょうか。

東京五輪汚職など、またかと思うような事件が起こる度に、職業倫理の荒廃を強く感じずにはいられません。自己成長の実現から事業の発展へ、そして業界の向上から社会の発展へ。この福島に生きる私たちは、ロータリーの目的の実現に向け、ロータリアンとしての喜びと矜持を持って、力強く歩を進めることを誓い、宣言したのが、「ふくしま職業宣言」です。

RI2530 地区 2020-21 年度

ガバナー 石黒 秀司



## 「ふくしま職業宣言」に学ぶ職業奉仕

### 第1 「例会を通して自己を磨き、『奉仕の心』を高めます。」

#### 1 「例会を通して自己を磨く」とは

(1) 「例会」は、ロータリーにおいてどんな意義をもつのでしょうか？例会は、親睦を図る場であり情報交換の場です。会員は、例会で他の会員の顔を見、言葉を交わし、仲間との交流を通して親睦を図ります。又、様々な職業に就く人がそれぞれの立場で入手した情報を、相互に交換しあいます。

しかし、例会の最も重要な意義は、「会員が相互に切磋琢磨し、人格の向上を図る場である。」という点にあります。ロータリーの基本理念をうたった「決議 23-34」によると、「ロータリーとは、利己と利他の調和を目指す人生哲学である。」とされています。利己と利他の調和を図る人格を築くには、相当な修養が必要です。その修養の場が例会です。言い換えれば、例会は、「会員同士が刺激しあい、良質な人格の形成を目指して自己を磨く自己研鑽の場」と言えましょう。

(2) では、例会でどのようにして修養し、自己を磨くのでしょうか？会員同士の知恵の交換、発想の交換が基本になります。例会のプログラムとして、会員スピーチやゲストスピーチが企画されます。他の会員やゲストのスピーチを聞き、また自ら会員スピーチをすることにより、美しい生き方に感動し、自らの人生を反省します。人間は目先の利益に一喜一憂しながら生きる弱い存在です。そのような人間が「利己と利他の調和」を図り「奉仕の心」を身に着けるには、例会で他の会員と切磋琢磨する必要があります。

従来、例会は毎週開催されてきました。身内でも毎週顔をあわせる人は少ないのに、ロータリーは、なぜこんなに頻繁に例会を開くのでしょうか？それは、心弱き人間は、不断に刺激を受けないと、奉仕の心を身につけそれを維持することが困難だからです。

ここで、例会についての名言を掲げます。「例会は人生道場」（日本のロータリーの創設者米山梅吉）。「心を求めて例会に至り、境地を得て例会を去る。」（中央大学名誉教授小堀憲助）。

#### 2 「奉仕の心」とは

(1) 次に、「奉仕の心」とはどんな意味なのでしょうか？ロータリーでは、「奉仕の理念」という言葉がよく使われます。ここでいう「奉仕の心」は、「奉仕の理念を持った心」という意味なのでしょう。では、「奉仕の理念」とはどういう意味でしょうか。

ロータリーのテキスト（「ロータリー情報研究会」の「これだけは知っておきたい『ロータリーの基礎』」8 頁）によると、「奉仕の理念」を表現する言葉として、①「超我の奉仕」、②「最もよく奉仕するもの最も多く報いられる」、③「他者に対する思いやり」、④「自分にして欲しいことを何よりもまず他者に与える。」が使われてきたとのこと。

即ち、「奉仕の理念」は、ロータリーの公式標語である①と②の言葉、チェスレー・ペリーの③の言葉、マタイ福音書に出てくる「黄金律」と呼ばれる④の言葉などによって表現されてきました。なお、これまでは、③の言葉が引用されることが多かったとの由です。

- (2) さて、人間は、美しい気持ちから、他人のことを思いやり他人を助けることもあるでしょう。しかし、人間の心には、自分の利益しか顧みない醜い欲望も渦巻いています。他人を思いやる行動に出るには、日頃から利他の心を養い、利己的欲望を牽制してそれと調和した心境になる必要があるでしょう。

これをふまえると、「奉仕の理念」をどんな言葉で表現するとしても、「利己と利他の調和を目ざす心」がその背後にあるのではないのでしょうか。

ところで、先ほども述べたように、「ロータリーは、利己と利他の調和を目指す人生哲学である。」とされています。利己と利他の世界をさまよっている私達は、この人生哲学を学び、奉仕の心を高める決意です。

### 3 まとめ

私たちは、例会で他の会員と切磋琢磨して人格の向上に努め、利己と利他の調和を目指して奉仕の心を高めます。

## 第 2 「各々の職種において、職業倫理の向上と奉仕の普及に努めます。」

### 1 「職業倫理、職業奉仕」のロータリーへの導入

- (1) 長年にわたり、「職業奉仕はロータリーの金看板」と言われてきました。この言葉は、職業人を主な構成員とするロータリーにおいて、職業奉仕が基本理念であることを意味しました。会員は、「職業奉仕」を通して生きる姿勢を学び、人生論を語りました。この金看板は、会員に対し、ロータリーへの熱い思いと深い矜持を与えました。
- (2) しかしながら、設立時（1905 年）のロータリーには、職業倫理や職業奉仕に関する理念がありませんでした。設立時の定款は、①「会員相互が職業上の相互扶助をすること」、②「会員相互が親睦を図ること」についての 2 カ条のみでした。

その後、アーサー・フレデリック・シェルドンが入会し（1908年）、「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる。」を提唱します。その標語は、ロータリー宣言に採択され（1911年）、やがて公式標語の一つに選ばれます。こうして、シェルドンは、顧客の満足を優先する販売学理論に基づき「奉仕の哲学」を主張し、職業奉仕の理論を唱えます。

- (3) 一方、職業を神から与えられた「使命」とみる「天職」という考えや、宗教を離れてロータリーを「職業人の倫理運動」ととらえる考えも、職業奉仕を支える理論となります。後者の立場に立つ深川純一PGは、「ロータリー運動は、人類文化史が20世紀の時代に刻印を打った最もすぐれた職業人の倫理運動である。」と指摘しておられます。そして、「職業奉仕とは、世のため人のために奉仕する心をもって職業を営むこと」と定義されます。

- (4) 以上、自らの職業に職業倫理の向上と奉仕の実践を目指す職業奉仕は、ロータリー100年余の長い歴史の中で培われてきたものです。特に、日本人ロータリアンは、前述した決議23－34の精神を尊いものと受け止め、職業倫理、職業奉仕を大切にしてきました。

私たちは、東日本大震災からの復活を宣言するにあたり、「世のため人のために奉仕する職業」を目指すことを、併せて宣言するものです。

## 2 各業界や世間への普及

- (1) ロータリーは、長年にわたり「一業種一会員」の原則を採用してきました。（現在は緩和）。自分が会員である限り、他の同業者は加入できません。その意味では、ロータリアンは、自分が所属する職業上のグループの代表として加入しているともみられました。

そこで、ロータリアンは、職業倫理などロータリーで学んだ考えを、自らが所属する業界に普及させることも使命の一つでした。例えば、レストラン経営者だったガイ・ガンディガーが、同業者全体のために、「レストラン協会の倫理訓」を作ったことはその一例と言えましょう。

以上、ロータリアンは、ロータリーが大切にしてきた職業倫理の向上、職業奉仕に自ら努めるとともに、所属する業界にそれを広める自覚を持つべきこととなります。

- (2) さらに、前述したように、ロータリアンは例会で切磋琢磨し、良質な人格を形成することを目指しています。そこで、職業を高潔なものにするのみならず、社会生活における奉仕の理念の実践も要請されることとなります。

ロータリアンは、このように、単に所属する業界のみならず世間一般にもロータリーで学んだことを伝え、その普及に努めるべきなのでしょう。

- (3) ところで、世の中には、職業倫理、職業奉仕に反する行動が時折見られます。かつては、公害問題や消費者問題など大きな社会問題になりました。海外では、リーマンショックの際、サブプライムローンに示される強欲資本主義が耳目を集めました。この日本でも、一流の大企業でさえ倫理違反の事実が時折指摘されていることは、新聞などマスコミによる報道の通りです。

このような現実を踏まえると、それぞれの職種において、そしてまた日常生活の諸分野で、職業倫理を普及させるロータリアンの役目は、極めて重要だと思われれます。

### 3 まとめ

私たちは、自らの職業のみならず、自分の職業が所属する業界の職業倫理の向上に努め、同業界全体が職業奉仕を行うよう尽力します。

## 第3 「自分の職業に誇りを持ち、積極的に価値ある行動をします。」

### 1 誇り得る人生と職業

- (1) 私たちは、人生でのどんな誇りをもって一生を終えるでしょうか？生涯を振り返り、どんな誇りを胸に抱えて旅立てるでしょうか？
- それには、いろんな考えがあるでしょう。その一つとして、「自分は世の中に『価値』を生み出した」と納得できれば、「自分の人生も無駄ではなかった。」という誇りにつながるでしょう。
- (2) さて、人は、害悪を生み出す可能性がある一方、価値を創出することもできます。人は一般に、職業を通して世の中に価値を産み出しているといえましょう。人が職業として仕事を行う際に代金や給料などの金銭を取得するのは、客や雇用主に対し、価値あるものを提供するからです。
- さらに、職業は、経営者、従業員、取引先などとのさまざまな人間関係の中で営まれています。この人間関係が円満に営まれ、各立場の人が幸福感を感じられるようにすることも、職業を通じた価値の創出になるでしょう。
- (3) ところで、人は、職業に多くの時間とエネルギーを費やします。また、職業を通して様々な人間関係を築き、社会に参加しています。さらに、職業に就き働くことによって、生活の糧を得ています。
- これらによると、職業に取り組む姿勢こそが、「その人の生きざま」と言っても過言ではありません。従って、職業を通して社会に価値を生み出すことは、価値ある生き様を



示すことであり、職業に対する誇り、さらには人生への誇りにつながることでしょう。

## 2 ロータリーの目的と職業

- (1) では、社会に価値を生み出す誇りうる職業の在り方は、ロータリーとどの様に関連するのでしょうか？それを検討するために、そもそも「ロータリーの目的」は何なのか、について考えてみます。

「ロータリーの目的」は、「ロータリーの友」に毎号掲載されています。「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある」という本文と、それを具体化したとされる 4 カ条で構成されています。これらは全体として一つの目的を詠っており、それが本文に書かれていると理解されます（原文の Object が単数形であるうえ、4 カ条は本文の具体化）。

そこで、ロータリーの目的は、本文が述べている通り、「奉仕の理念に基づいて世の中のためになる仕事をする人間を作ること（職業奉仕主体の育成）にある。」と解釈できます。奉仕の理念に基づいて世の中のためになる仕事をする人間は、世の中に多くの価値（金銭的価値に限らないことは前述の通り）を産み出します。これをふまえて、「職業奉仕する人間の育成」を目的に掲げたのでしょう。

- (2) 以上、「自分の職業に誇りを持ち、積極的に価値ある行動をすること」は、ロータリーの目的にもかなうものと言えましょう。

ここで、元 RI 会長（1974～75）ウィリアム・ロビンスの次の言葉を噛みしめましょう。

「ロータリーの価値は何によって測られるか。それは国際ロータリーやロータリークラブの規模の大小や会員の多寡ではない。

そのクラブがいかなる人を育てたかによってロータリーの価値は測られる。」（深川純一 PG の「ロータリーの存在意義」と題する論考より）。

## 3 まとめ

私たちは、自分の職業が世の中に価値を生み出すことに誇りを持ち、さらに、自分の人生が世の中に役立つような生き方をします。

## 第4 『『四つのテスト』を行動指針とし、自分自身を律します。』

### 1 「四つのテスト」とは

ロータリーは、「利己と利他の調和」を目指す人生哲学です。そこで会員は、職業においてもその余の日常生活においても、利己と利他の調和を目指して行動すべきことにな

ります。しかし、「利己と利他の調和」というだけでは抽象的過ぎます。

もう少し具体的な指針がないかを考えた時、「四つのテスト」があります。四つのテストは、「言行はこれに照らしてから」で始まり、「①真実かどうか、②みんなに公平か、③好意と友情を深めるか、④みんなのためになるかどうか」の 4 項目を掲げた指針です。90 年以上前に、ハーバード・テーラーが創案し、その著作権が RI に移譲されました。

この標語は、テーラーが、自ら実践した職業奉仕の要諦を言葉にしたものです。そこで、単なるスローガンとは違う重みがあります。その解釈としては、従来、「商道徳を高めるための倫理指針」と受け止められてきました。しかし、「倒産の危機に陥った会社を再建するための合理的な経営方針」とみる見方も有力です。後者の立場から、標語の日本語訳について一部異なる理解もなされています。

## 2 ハーバード・テーラーの実践に学ぶ

- (1) テーラーは、倒産寸前の危機に瀕していたクラブ・アルミニウム社の経営の再建を依頼されます。そこで、次期社長候補だった会社を退職し、クラブ社の社長職を引き受けます（給与は 8 割減）。同社の社員 250 名の命運を担います。

テーラーは、再建に際し、上記 4 項目を創案し、社員に提示します。そして、上記①の指針から、宣伝広告や企業案内文にあった「最上級（の商品）」、「最高（の品質）」という表現を削除します。又、自社製品の短所を含めた特徴や長所を事実のまま表現します。③の指針から、競争相手の他社製品の欠点を指摘する文言を削除します。このほか、目先の損を覚悟で、客や取引業者の信頼を裏切らない商売を行います。

このような経営は、客や取引先から絶大な信頼と信用を得、社員も誇りを持って仕事に励みました。その結果、見事に経営を再建し、5 年間で莫大な負債を返済したとのことです。

- (2) 私たちは、テーラーの実践例から、事業経営における「信用の重要性」を学べることができると思います。事業は一時的に利益が出ればよいのではなく、その利益が継続しなければなりません。利益が継続するためには、お客がリピーターになって何度も来てくれること、評判がよくなって客の範囲が拡大することが必要です。そのために重要なのは、その店の「信用」（深川 PG は、取引終了後も継続する「清算されない人間関係」における「保護膜」といわれます。）です。これらは、まさに 100 年以上前に、シェルドンが言っていたことに通じます。

以前、「海外旅行をするときは、ロータリーのバッジをつけていくとよい。海外の見知らぬ人も、ロータリアンだとわかると、信用してくれるから。」と言われました。ロータリアンは、なぜ信用できたのでしょうか？それは、日々営む職業において、利己と利他の調和を図るべく自己を律し、四つのテストを順守すべく努力している人間とみられるからではないでしょうか。

### 3 まとめ

私たちは、四つのテストを行動指針として自己を律し、信用される人間になって職業奉仕に努めます。

以上

令和 5 年 6 月

2022-23年度	職業奉仕委員会
担当相談役	大橋 廣治
委員長	齋藤 純一
副委員長	古俣 猛
委員	小池 正幸
委員	内藤 哲太郎
委員	福西 宜孝 (担当)
研修委員長	石黒 秀司
研修委員	上村 直人

